

令和元年9月3日 第8回林務部改革推進委員会【資料1】

林務部コンプライアンス推進行動計画の取組状況

長野県林務部

林務部コンプライアンス推進行動計画の取組状況 その1

- 林務部コンプライアンス推進行動計画は、「林務部改革推進委員会」の意見や、「林務部改革プロジェクトチーム」からの提案を踏まえて作成。
今年度は、前年度の項目を精査して、33項目から27項目に絞って取り組んでいる。

【代表的な取組の状況】

③ 林務部改革プロジェクトチームの活動

【取組概要】

林務部における改革、改善の実践窓口として位置付け、若手メンバーを公募して活動

【具体例】

第1回 活動方針の確認（7/8開催）

- 11名（継続5名）が参加し、昨年度の取組を確認
リーダー、副リーダーと、今年度の深掘りする取組を決定
- ・ オープンミーティングの支援
 - ・ 情報発信
 - ・ 信州 森林（もり）のお宝図鑑
 - ・ 経営マネジメント手法DMAICの検討
 - ・ 林務部コンプライアンス推進行動計画の見直しに向けた提言

第2回 経営マネジメント手法 DMAIC の試行（8/7開催）

- 業務を進める上で、課題となっている事項をテーマとして選定し、DMAICを試行
各班のテーマ：「地域林業の担い手の確保」
「業務の量的負担」
「立場によるギャップの埋め方」



第1回 活動方針の確認



第2回 DMAIC の試行

林務部コンプライアンス推進行動計画の取組状況 その2

⑥,⑦ 星取表の作成と運用

【取組概要】

「行動計画に関する項目（課レベル）」に加え、新たに「業務管理・改善に係る項目（係レベル）」の進捗管理を行う。

- 目的：組織内・組織間の目標の共有・見える化と、業務課題の早期把握、各係・担当業務への自分ごと化
- 対象：定期的に業務の進捗が管理されておらず、既に係内や課内で共有・見える化がされていないもの

コンプライアンス行動計画推進表(星取表)

<以下、様式の記載例>

取組 レベル	区分	項目 番号	項目	実施事項		担当者職氏名 (正・副)	6月末 進捗状況	ふりかえり できなかった理由(できなかった原因) 次期へ向けての対策等
				内容	期限			
課 レベル	行動 計画 に関 する 項目	⑦	星取表を用いて課(室)単位で半年に1回取組期限の確認、進捗管理等を行うとともに星取表の見える化を行ない、各所属での共有を図る	課・係で定められた時期に進捗状況を確認し、ふりかえり事項を記載	3月末	[正]課長補佐〇〇 [副]担当係長〇〇		
		⑧	規範意識醸成のための職場内研修会を実施	コンプライアンスに関する講習会を実施	3月末	[正]課長補佐〇〇 [副]担当係長〇〇		
係 レベル	業務 管理 ・改 善に 係る 項目 (別)	1	造林事業の進捗管理	①30年度繰越 防災・減災の箇所 ②30年度補正 a 公共、b 非公共 ③31年度当初予算	毎月末	[正]課長補佐〇〇 [副]担当係長〇〇		
		2	治山事業の進捗管理	①契約率80% ②H30繰越、H31当初の年度内竣工	①9月末 ②2月末	[正]課長補佐〇〇 [副]担当係長〇〇		

【「業務管理・改善に係る項目」の主な取組】：四半期毎にふりかえり

項目	実施事項	所属
1 共有サーバーを用いた補助（造林（森林税含む）、県営林）事業の進捗管理	・再配当、内示、交付決定時に随時データ入力 ・毎月末に再チェック、係全員で内容を把握	北アルプス
2 組織的な課題の早期把握と、的確な進捗管理の実施	・主要業務の課題と当面の目標を係毎に整理 ・月2回の朝会で情報共有と進捗管理し、更に係内で共有	信州の木
3 市町村との連携強化の仕組みづくり	今年度から制度化された森林経営管理制度への支援 進捗に合せた市町村連絡会議、広域連携検討会議の開催、対象森林の絞込等	上田、南信州、 長野、森林政策
4 業務内容や取組状況等の積極的な情報発信	ブログを月1回程度発信 「山地災害とその前兆」、「水鳥たちを泣かせるモノ」、「見習いハンターが行く」等	上田、諏訪、 南信州
5 工事の現場監督への同行	・係長は全箇所1回以上同行し、進捗確認し、フィードバック ・現場監督員は他の係員に1回以上同行を求め助言を受ける	長野
6 狩猟免許試験及び狩猟免許更新業務の担当不在時の対応の明確化	・必要書類、確認項目、手続きの流れをマニュアルとして整備し、係全員の対応を可能にする。(マニュアル整備が済み、係全員で対応中)	上伊那

林務部コンプライアンス推進行動計画の取組状況 その3

⑰ 現地機関訪問による課題の把握

【取組概要】

林務部 部課室長その他関係する職員が現地機関を訪問するなど、直接課題を把握する機会を増やす

【具体例】

本庁の幹部職員等が課題のある現場をはじめ、主要な現場を訪問し、意見交換を実施

信州の木活用課長は9地域の林業普及指導事業巡回指導に同行し、現場の課題、本庁への要望を聞き取り

【訪問状況】

林務部長	5/23 佐久・上田、6/8木曾、6/14 諏訪、上伊那、松本
森林政策課長	7/25 松本・木曾
信州の木活用課長	5/10 上伊那、5/22 松本、6/4・18・21 松本、 6/6・12 北信、6/19 南信州、8/1 木曾、 7～8 林業普及指導事業巡回指導 9地域
主任林業専門技術員（課長級）	2～3回/週 北アルプス
県産材利用推進室長	5/14 松本、6/19 松本、7/16 松本
森林づくり推進課長	6/8木曾、6/12北信、6/14 諏訪、上伊那、松本、 7/11・12 南信州、上伊那、7/22 長野、8/9 木曾、8/20北信
鳥獣対策・ジビエ振興室長	5/17 松本、6/8木曾、7/17 諏訪、8/1・2 松本、 8/13 木曾、8/16 南信州、8/19 諏訪



林業普及指導事業 佐久・上田 巡回指導

林務部コンプライアンス推進行動計画の取組状況 その4

② 林務部オープンミーティング

【取組概要】

業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽な場を設ける。

【具体例】

第3回GISに関するオープンミーティング

R1. 7/24開催、20名参加（※第1回 H30.11/30, 第2回 H31.3/8）継続的に開催

○現状

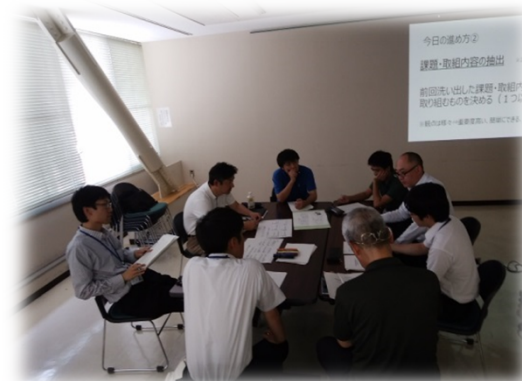
県にて、航空レーザー測量データの解析や森林GISデータの整備が進む一方、それらを高度に活用するツールとして、GISを十分に活用できていない状況と認識

○検討事項

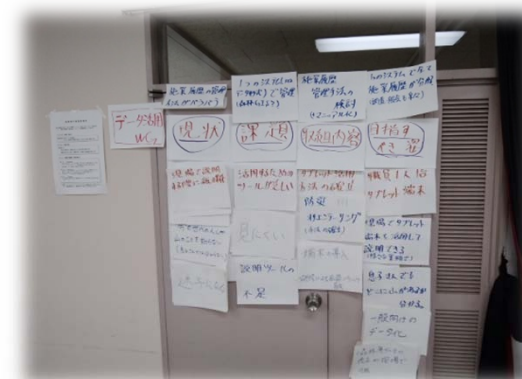
- ① GISの活用事例の共有
- ② GISの普及における課題・解決策の検討
- ③ 各業務におけるGISの活用方法の検討
- ④ その他GISを効率的に活用するために必要と思われる事項



職員ポータルサイトで会議資料等を共有



グループワーク



グループワークのまとめ



発表

○第3回の内容

・活用事例発表

「森林管理制度でQGISを使ってみた」

「統合型GIS、岡谷市等の取組、選挙の仕事で使う」

・グループワーク検討課題

各WGのテーマ：「活用方法の普及」、「データ活用」、「データの整備」

【今後の予定】

大北地区森林整備実務者研修、第4回GISに関するオープンミーティング

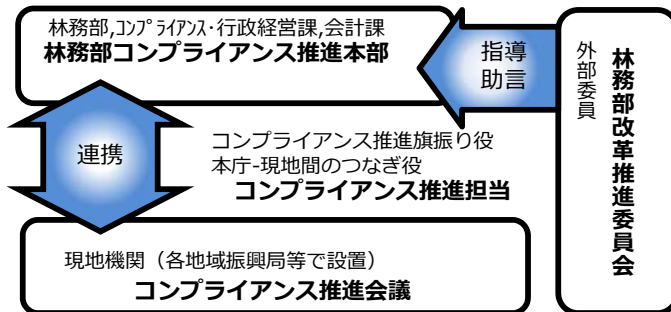
行動計画の改訂にあたって

- 大北森林組合補助金不適正受給事案の要因を作った、私たち、長野県林務部は、次の4つの過ちについて反省しなければなりません。
①目標達成等のため、業務執行にあたり不適切な手段・手法を選択したこと、②組織として防ぐための手だてを講じられず、不適切な事案を一部把握した際にも適切な対応がとれなかったこと、③地域の実情を十分考慮せず目標を設定し、実態を十分に把握しないまま事業を推進したこと、④従来の森林組合に対する指導監督では事案を抑止できなかったこと
- 本行動計画は、こうした事案に対する反省と「今後の林務行政が今後どうあるべきか」という視点等を踏まえて、林務部コンプライアンス推進本部での議論や現地機関職員の意見等に基づき、再発防止にむけた取組をとりまとめたものです。
- 私たち林務部は、今回の事案発生を真摯に反省し、再発防止に向けて、本行動計画に沿って、自分たちの業務を徹底的に改善する取組を進めます。
- 取組の推進にあたっては、「**県民起点で 県民に信頼され、期待に応えられる県行政を目指します。 職員が高い志と仕事への情熱を持って活躍する県組織を目指します。**」という**長野県行政経営理念のビジョン（目指す姿）**を常に意識し、「自らの業務が適切か常に点検・議論し、行動する」ことをお約束いたします。
- 平成31年度の行動計画の改訂にあたっては、「林務部改革推進委員会の意見」や「林務部改革プロジェクトチームからの提案」等を踏まえ、行動計画の「必須」と「選択」の取組を一部見直しました。

1 「県民起点」の意識改革

(1)コンプライアンス(※)意識の定着・向上

- ① 林務部コンプライアンス推進本部、
現地機関コンプライアンス推進会議の運営(必須)
- ② 林務部改革推進委員会による取組の指導・助言(必須)



- ③ 林務部改革プロジェクトチームによる民間企業訪問研修、行動計画の見直し提案等(必須)
- ④ 長野県行政経営理念、長野県行政経営方針の理解・定着(必須)
- ⑤ 新たに林務部に配属された職員に対する研修の実施(必須)
- ⑥ 各所属で林務部コンプライアンス推進行動計画を基にワークショップ等を開催、業務改善に繋がる星取表を作成(必須)
- ⑦ 星取表を用いて定期的な進捗管理等を行う(必須)
- ⑧ 規範意識醸成のため職場内研修会を実施(必須)
- ⑨ 宴会の開催案内や冒頭挨拶で注意喚起(必須)
- ⑩ コンプライアンスに関する「誓い」の提出(必須)

(2) 適正な業務の実施

- ⑪ 計画ありきではなく現場実態を踏まえ、現地要望等に沿った予算を適切に執行するとともに定期的に予算執行状況の進捗管理を実施(必須)
- ⑫ 引継書を組織で共有し、業務引継が確実に行われるよう徹底(必須)

(3) 職員のモチベーション向上

- ⑬ コンプライアンスの視点を踏まえた業務目標・チャレンジ目標の設定(選択)
- ⑭ 森林・林業行政の歴史や現状、取組方針等を共有(必須)
- ⑮ 「頑張った」あるいは「きらりと光る」取組の収集・発信(必須)

2 風通しのよい対話にあふれた組織づくり

(1) コミュニケーションの活性化

- ⑯ メール、テレビ会議等を活用して、コミュニケーション機会を増やす(必須)
- ⑰ 林務部 部課室長その他関係する職員が現地機関を訪問するなど、直接課題を把握する機会を増やす(必須)
- ⑱ 係や担当を越えて業務を助け合う(必須)
- ⑲ 組織的に課題を早期把握し、的確に対応するためのマネジメントを課単位・係単位などで試行・実践(選択)

(2) 広報・情報発信の充実

- ⑳ 業務内容や取組状況等を積極的に情報発信及びSNSを活用した情報発信の簡素化(必須)

3 しごとと改革（しごとの質と生産性の向上）

(1) 職員の能力向上

- ㉑ 専門研修や担当者会議の実施による業務に必要な専門的知識や技術の習得(必須)
- ㉒ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける(必須)

(2) 人員配置の最適化

- ㉓ 各所属の実態やニーズの把握と人員配置の最適化、部局や職種を超えた人事異動(必須)

(3) 「しごとと改革」による業務の改善・効率化

- ㉔ 職員自らの工夫・実践により、成果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る(必須)
- ㉕ 造林事業をはじめとする不適正受給が発生した事業での再発防止策の定着状況等を検証し、適正な業務実施とともに効果的・効率的な手法等への改善(必須)

(4) 市町村・森林組合等関係団体との適切な連携

- ㉖ 市町村等との連携の強化・仕組みづくり(選択)
- ㉗ 森林組合の常例検査(全面検査)へ公認会計士等の同行(必須)

※ コンプライアンスとは、単に法令を遵守するということだけではなく、「社会からの要請を常に真摯に捉え、思考・議論した上で自らの業務に取り込んでいく」という意味で使っています。

長野県行政経営理念

県の行政経営に当たり、私たちの組織の「ミッション（使命・目的）、ビジョン（目指す姿）、バリュー（職員の価値観・行動の指針）」について、「行政経営理念」として定めます。

【ミッション（使命・目的）】

最高品質の行政サービスを提供し、
ふるさと長野県の発展と県民のしあわせの実現に貢献します。

【ビジョン（目指す姿）】

県民起点で
県民に信頼され、期待に応えられる県行政を目指します。
職員が高い志と仕事への情熱を持って活躍する県組織を目指します。

【バリュー（職員の価値観・行動の指針）】

責 任 Commitment

- ・「県民から何を望まれているか」を常に意識し、県民や社会からの要請に的確に応えていきます。
- ・コンプライアンスを「自分ごと」とし、県民の皆様の思いに寄り添った対応に努めます。
- ・成果を意識し、スピード感を持って最後までやり抜きます。

協 力 Cooperation

- ・部局や上司・部下の垣根を越えて、チームとして支え合い、助け合い、課題解決にあたります。
- ・風通しのよい職場を目指し、率直に意見を出し合い、自由闊達な議論を行います。
- ・県民や市町村、NPO、企業など様々な組織と協働します。

挑 戦 Challenge

- ・社会の環境変化に敏感に対応し、前例踏襲に陥ることなく、常に学び続け、改善・改革に取り組みます。

*職員一人ひとりがミッション・ビジョン・バリューの意味を考え、自分ごと化するとともに、職場討議を通じて、各職場の特性・状況に応じた具体化を行います。

林務部独自行動の指針 「私たちは、自らの業務が適切か常に点検・議論し、行動します。」

林務部のビジョン

現場を確認する



考える



行動する



変える

現場を確認しているか。

森林は人々は社会はどうか、現場が原点。

「こうだろう」という不確かな
推測で仕事をしてないだろうか。

困っている現状をどうするか、どう向き合うか。

まずは、自分の言葉で考えよう。

県民のための最善策は何か、仲間や上司と冷静に
科学的に議論し、共感点を探ろう。

何をすべきか明らかになったら、

前向きに行動しよう。

まずは、自分が変わることで組織も変わる。

そして、社会を変えていこう。

【目指す姿】

「時代の要請に機敏に対応

できる新しい林務部へ」